

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	富士山河口湖音楽祭実行委員会	
施 設 名	河口湖ステラシアター	
助 成 対 象 活 動 名	普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	4,409	(千円)
	公 演 事 業	0 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	4,409 (千円)

1. 事業概要

(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	演奏家と共に楽器になる 木を育てよう森のコンサート ～豊富な自然の中で音楽に親しむ～	2023年8月20日	出演：オマタタツロウ（笛奏者） オマタジュンコ（紙芝居） ※木の実で作った楽器で子供たちと共演	目標値	50 目標 (大、子供)
		森の音楽堂 (河口湖ステラシアター前広場)		実績値	107名(午前の部、午後の部 合計参加者数)
2	演奏家による音楽普及演奏会プロジェクト 街中が音楽いっぱい～音楽を身近にもっと楽しく～	2023年8月11日～ 8月24日	亀井聖矢（ピアノ） 池上英樹（打楽器） 高野百合絵（ソプラノ） 御喜美江（アコーディオン） 太田智美（アコーディオン）	目標値	1,000
		河口湖円形ホール 河口湖美術館 他		実績値	350名
3	子どものための音楽プロジェクト ～海外演奏家と音楽を通して心の交流～	2023年7月13日	ペーター・ヴェヒター (ヴァイオリン) 門田佳子(ピアノ)	目標値	500
		河口湖円形ホール		実績値	85名
4	高齢者のための音楽プロジェクト ～海外演奏家と音楽を通して心の交流～	2023年7月13日	ペーター・ヴェヒター (ヴァイオリン) 門田佳子(ピアノ)	目標値	60
		富士河口湖町内 老人ホーム (デイサービス はるみさん家)		実績値	25名

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
<p>富士河口湖町は、将来ビジョンとして観光産業に文化芸術を取り入れた町づくりをスローガンに、五感文化構想（視覚、聴覚、味覚、臭覚、触覚）を立ち上げ、ホール、美術館、ハーブ館など文化観光の拠点施設を設置し各施設が町の生産性を高めるけん引役を担い、施策によって町の人口規模も飛躍的に伸びていった町である。その中核となる聴覚分野を担う河口湖ステラシアターは、3000名収容の野外音楽堂で、平成7年の開館当時は完全な野外音楽堂であったものの、平成19年に可動屋根を設置し、全天候型野外音楽堂として現在に至る。町直営であることを踏まえ当初から運営に住民の参画を促し、一緒に活動を共にする中で、地域文化ボランティアを中核とした富士山河口湖音楽祭を平成14年に佐渡裕さん監修によりスタートした。令和5年で音楽祭は22回目を迎え、住民参加型創造音楽祭という形式の中で培ってきた実行委員であり、ホール開設当初からの文化ボランティアも企画立案の重要なポジションもできており、まさに住民と一緒にになったホール運営になっている。当初からのボランティアも90才近くになるが、今でも現役であり副実行委員長も担い、その活動の後ろ姿が、60代、70代の活動における精神的な支柱となっており、やりがいから生きがいになっている。併せて小学高学年と中学生のジュニアボランティアも大人の取り組みを見て一緒に活動をしている。国内各地で高齢化が更に進んでいる中で公共ホールの役割は、益々重要な位置付けになっており、むしろ一緒に活動していく仕組みを強化すべきかと思われる。</p> <p>また、音楽祭を開催することにより、全国各地の主要な音楽祭として当音楽祭も取り上げられており、地域の文化ブランド作りにも貢献している。県外から訪れる来場者も多く宿泊促進、音楽祭におけるミニ演奏会開催に伴う来場者の増加、また、周辺レストランなどホールに関わる周辺の施設が、音楽祭開催における大小合わせたプログラムが有機的に機能し、各所に良い影響が出てきていると考えられる。</p> <p>当町は観光地でありイベントに対する経済活性化事業の理解度は非常に高い地域ではあるので、一時新型コロナウイルス感染症の影響を受けた町ではあるが少しずつ回復している。その中で、誰でも参加できる森の中のコンサート、子ども・高齢者を対象としたコンサートが開催できたことは、教育的な効果及び社会を元氣にする効果を上げることができたと思われる。</p> <p>文化が経済をリードする街づくりの中核として、音楽祭がすべてを融合する音楽を主体とした芸術文化プログラムの牽引役を担っている。</p>
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
<p>町の生産性向上に貢献するホール、文化が経済をリードするまちづくりに貢献する視点を持ちながら、拠点となるホール（河口湖ステラシアター）が、観光地におけるホールの在り方を実践する場所となり、周辺観光施設、飲食店、ショッピングセンター等各施設に対し、集客に伴う経済的な恩恵を与える施設となっている。併せて、外部からの流入人口を増やすことから広域的な地域の生産性を高め、新たな音楽団体の受け皿となり目的（音楽）を持った滞在の仕組みができる施設であり、町全体の魅力づくりに貢献する一助を担っている。一方で、ホールの中核事業として、良質なクラシック音楽祭があることは、地域の文化芸術性を高める機会を醸成する場となっている。また、ホールの運営側に住民も参加できる仕組みも構築し、住民参加型創造音楽祭の形態が、文化芸術を通じた総合的なまちづくり事業の一助にも繋がっている。</p> <p>一時は新型コロナウイルスの影響がありましたが、令和5年度は域周辺エリアのイベントがもとに戻ってきている。富士山河口湖音楽祭では、各プログラムを実施できたことにより、新たにホールや音楽祭を知ってもらい良い機会になり、今後の集客へもつながる活動になったことと思われる。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

ホールの活動理念を具体的にするためのホール中核事業として2002年から22回目の開催となる住民参加型創造音楽祭「富士山河口湖音楽祭」をベースに、ホールの役割として、将来的な人材育成のためのプログラムを実施する。令和5年度助成対象の普及以外にも、音楽祭には重要な役割を果たす、音楽家によるアカデミープログラム、合唱と吹奏楽の特別編成プロジェクト、また地元運営文化ボランティアと音楽大学アートマネジメントコースで学ぶ学生との文化ボランティア活性化事業を開催する。この人材育成のプログラムは、将来のホール運営事業を支える重要なテーマとなる。ホールのプログラムに関わってもらいながら、ホールと人との結びつき、及びホールを支える人を育てている。

また、普及活動としてホールから外へ出て観光施設や美術館などを会場にミニ演奏会も開催することから、地元住民のみならず県内外から来場者があった。森の中のコンサートでは10年ほど前に植えた木々に実がなる木も出来てきており、事業の趣旨を説明し演奏会前に植樹作業を行った。中には10年前に同イベントに参加し、植樹をされた高齢夫婦も参加され、このイベントを通じて心をつなぐ機会になった。こうした思いが劇場につながる下地となっており、事業を実施するねらいでもあり、ホールの基盤にもなっている。

音楽祭は8月11日（金祝）から開始し、今年の演奏家による音楽普及演奏会プロジェクトは、大都市圏では収容能力の高い会場で行われる演奏家による最高質の演奏を、100名収容の河口湖円形ホールで演奏会を楽しむ機会を作ることができた。併せて、アウトリーチコンサートとして、どなたでもご鑑賞いただける美術館でのコンサート、老人福祉施設などで開催することができ、ふと訪れた会場で音楽を楽しむことにつながり、音楽を自ら楽しむ機会を作ることが難しい高齢者に生の本物の演奏を楽しむ機会を提供することができた。助成金をいただくことにより良質な音楽を身近に感じられる機会になり、こうした地道な活動ではあるが、地域におけるホール運営の理解につながり、オーケストラ演奏など大規模演奏会開催への住民理解へとつながる機会になった。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

富士山河口湖音楽祭は当初の計画では、2023年7月からプレ演奏会を計画し、8月11日（金祝）から26日（土）終了する予定で事業計画を立案した。令和5年度では16日間と例年より少し長い期間を設けることで、住民をはじめお客様などへ、少しでも長く音楽を楽しむ機会となり「音楽のまち富士河口湖」につながるフレームづくりを行った。事業内容を若干整理しながら町民住民ボランティアの理解と協力により、無事事業を実施することができた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

富士山河口湖音楽祭は当初の計画では、2023年7月からプレ演奏会を計画し、8月11日（金祝）から26日（土）終了する予定で事業計画を立案した。令和5年度では16日間と例年より少し長い期間を設けることで、住民をはじめお客様などへ、少しでも長く音楽を楽しむ機会となり「音楽のまち富士河口湖」につながるフレームづくりを行った。

出演者の変更により、事業内容も若干整理しながら、町や住民ボランティアの理解と協力により、プログラムが実施できたことは、地域において社会的な意味を持つ位置づけにもなった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

河口湖ステラシアター・円形ホールが位置する富士北麓富士五湖地方は、夏のリゾート地として主に7月から8月にかけて観光のメインシーズンとなっている。毎年富士山河口湖音楽祭も同じ時期に開催しており、この時期は全国各地や外国からも多くの来訪者があり、一番賑わう時期であると同時に、滞在者が当地の魅力をキャッチする絶好のタイミングでもある。各観光施設がフル稼働になっている中で、各施設に音楽会鑑賞目的での来訪、またはふと訪れた施設で音楽を楽しむ機会になる等、音楽を通じてもてなしの仕組みを求めるニーズは多くある。各施設も自らの業務形態に特化した中で営業しており、演奏会を自ら企画し展開しているところは数少なく、ホールが音楽の普及プログラムを実施することは各施設及び町全体として必要とされている。ホールの役割として、演奏家とのネットワークを活かして、一流演奏家等各演奏家の演奏会を気軽に楽しめる機会の充実を図るニーズがあると考えられる。また、アットホームでゆとりを持った雰囲気のある100名収容の室内ホール河口湖円形ホールは、小さな室内楽を身近に感じられる空間になっており、クラシック音楽など室内楽を身近に感じられるホールとして更に機能強化していく必要がある。併せて、地域住民に対して、住民が普段日常的に使っている各施設（病院、公民館、ショッピングセンター等）でも、良質な演奏会を開催し、音楽を身近に感じられる機会は住民の日々の生活に潤いを与え、特に病院や老人ホームなどでは高齢者に心和む音楽を届け、音楽で心安らぐ雰囲気を作っていくことが必要とされている。

令和5年度は町内小中学校（※今年は都合により会場：河口湖円形ホール）、老人ホームへも出向くことができ私たちが掲げる以下目的が実現できたのではないかと考える。

- ・ホールが音楽祭の枠組みを作り実施する良質な演奏会を住民が鑑賞する機会を作り、住民の心豊かな生活環境作りに貢献する。
- ・子どもたちへ生の本物の音楽を届けることで、その瞬間でしか聴くことのできない音楽の、感動やすばらしさを体験してもらう。その演奏会により、子どもたちの豊かな心をつくる一つの経験に繋げる。
- ・ホールが海外から直接演奏家を招聘し、子どもたちとの演奏や簡単な英語を使って国際交流環境の充実を図る。
- ・演奏家と子どもたちとの共演（校歌や音楽の授業で扱った曲や練習曲など）を実施することで、音楽を通じて地域とふれあう交流活動となり、子どもたちと演奏家と一緒に音楽を楽しむ機会の充実を図る。
- ・会場へ足を運ぶことが身体的に困難な高齢者に対して演奏家自らが赴き演奏会を開催することで、生の音楽に触れる機会を提供し、住民の心豊かな生活環境作りに貢献する。

引き続きこのような活動を大切にしながら、住民とともに考え・参加する「住民参加型創造音楽祭」として役割を持つべきだと考える。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

富士山河口湖音楽祭はオリジナルプログラムとして、海外演奏家と直接かかわりながらホール企画制作による事業ができることを最大限に活かし、住民ボランティア、学校各先生とも連携しながら、子供たちに生の本物に触れる機会を作っている。世界で活躍する演奏家による演奏を身近に感じる機会となり、本物に触れる機会を養う機会になっている。併せて、演奏家との交流から外国語にも触れる機会にもなっており、将来のホール運営にもつながる機会になる重要なプログラムとしている。

毎年この普及活動の一つにある、子どものための音楽プロジェクトでは演奏家との共演を一つのプログラムとしている。この共演に向け、子どもたちは本番までに、合奏の成功を想像しながら日々練習を重ねている。本番では、演奏家が音楽で子どもたちを先導し、曲が完成していく様子は鳥肌が立つような感動的な瞬間である。一生懸命なその演奏は、その場でしか味わえない忘れられない経験となり、元気づけられ明日への活力となることだと実感している。併せて、この機会を通じて、子供たちにとって音楽を身近に感じる環境を作っていく。ただ、町内の学校すべての会場で演奏会を実施することは難しく、音楽に触れる機会が得られない学校もある。平等に機会を共有する観点から、円形ホールでの演奏会を学校観劇教室の一環としても位置付け、児童生徒を招待している。より多くの地元住民である皆さんに音楽を純粹に楽しんでもらう目的と、もう一つに、子どもと同じ空間・同じ音楽を聴くことで、自宅での共通の話題の一つになることをねらいとしている。一つのことを皆で楽しみ、話をする時間が必要であり、そこから生まれる温かい会話で、小さなことではあるが、殺伐とした日々から少しでも心が救われ、活力になっている。

富士山河口湖音楽祭のプログラムを通じて、地域のみならず、全国に音楽の大切さ、文化プログラムを開催できたことの意義を共有できたことと思われ、こうした動きが令和6年度の富士山河口湖音楽祭の開催や、令和7年度（2025年度）のステラシアター30周年記念事業へとつなげていく希望をもっている。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

河口湖ステラシアターは平成7年5月開設以来、住民の参画をホール運営の根幹に据え、各コンサートを住民が鑑賞するだけでなく、来場者をもてなす側にも住民が立つ仕組みを作り運営している。一方で、観光地におけるホールの有り方を実践する場所であり、文化が経済をリードするまちづくりの中心施設でもあったことから、地元主要産業である観光に対して、文化芸術をマッチさせた事業展開を行う中心施設としてホールを活用し、町の生産性向上をけん引する施設としても位置づけている。平成10年5月にオープン以来参画してきた文化ボランティアを中心メンバーと一緒に発展的に組織化していく中で、ステラシアターサポーターズクラブに名称も新しくして、ホール運営を主体とした文化ボランティア組織としてホールを支え、現在に至っている。

私たちが「音楽のまち」を目指し、音楽祭等のホールが中心となって行う音楽プログラムが、地域全体に広範囲に行われることにより、改めて音楽を身近に感じる機会となり、地域全体の芸術文化活動の更なる活性化、将来の人材育成や地域産業の生産性の向上につながると思われる。また、良質な演奏会を住民が鑑賞する機会を作ることで、今後も住民の心豊かな環境に貢献することができ、事業を発案するところから住民の関りを作ることはホールを支えていく心の醸成に繋げる。各演奏会を通じて、ホールが住民交流の拠点となる環境を更に強化させながら、演奏家による良質な音楽を身近に触れ合う機会を作り、町中たくさんの場所で音楽を平等に楽しめる環境を作ることが私たちの役目ではないかと思う。

こうした地域住民が支えるホールとして、持続可能で地域に支えられるホールを目指して、各種事業を実施している。併せて、富士山河口湖音楽祭を拠点事業として、地域として深く住民とも向き合う機会となっており、文化度が益々深まっているように感じることができる。令和7年度（2025年度）には河口湖ステラシアター30周年の記念の年であり、これまで地域で一体となって開催してきました各演奏会やアウトリーチコンサートが下地となり、大きな礎となる記念事業を予定しており、令和6年度の事業も活動の下地になっている。